



# 2023年度 環境経営レポート

(2023年10月1日～2024年9月30日)



**山陽環境開発株式会社**



**にいみ清掃株式会社**

作成責任者：環境事務局 川原 友  
発行日：2024年12月9日

# Contents

p.02 | 事業概要

p.03 | 環境経営方針

p.04 | 自社の紹介

p.09 | 組織図

p.10 | 許可事項

p.13 | 車両台数

p.14 | 産業廃棄物処理工程

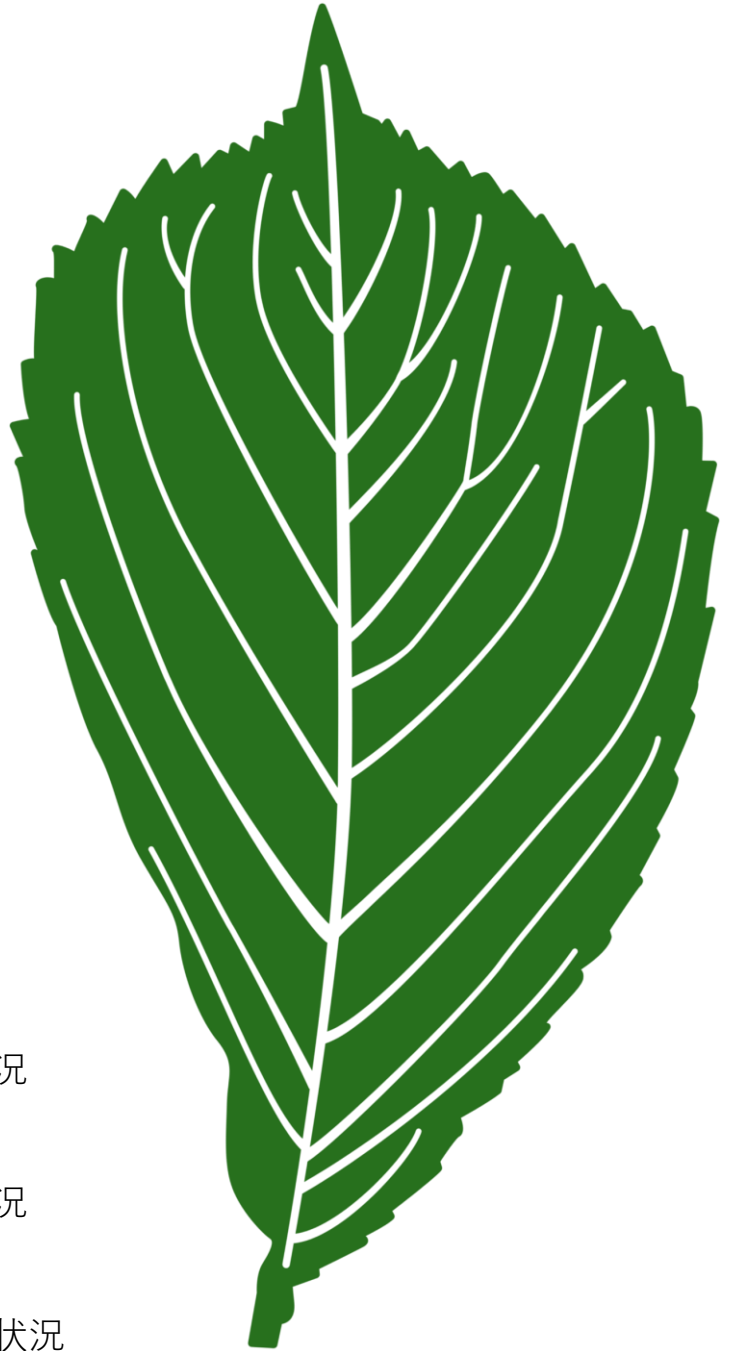
p.15 | 環境経営目標

p.16 | 環境経営計画と実施状況

p.17 | 環境経営目標の達成状況

p.21 | 環境関連法規等の遵守状況

p.22 | 代表者による全体評価と見直し結果



# 事業概要

## 会社概要

- 名 称 山陽環境開発株式会社  
にいま清掃株式会社
- 代 表 岩元 達也
- 所 在 地 〒718-0003 岡山県新見市高尾2304番地の1
- 事業内容 産業・一般廃棄物の収集運搬、中間処理、  
再生資源リサイクル業、人材派遣業
- 環境管理責任者及び環境事務局担当者 責任者：環境開発部 世垣 貴彦  
担当者：事業推進部 川原 友

	山陽環境開発株式会社	にいま清掃株式会社
電話番号	050-5530-1990	050-5530-1999
FAX	0867-72-1780	0867-72-1780
E-mail	info@sanyokirei.com	info@niimikirei.com
設立年月日	1985年2月	1983年8月
資本金	2,000万円	1,000万円
売上高	29,734万円	28,826万円
従業員数	21名	26名
床面積	70㎡	1,480㎡
敷地面積	9,047㎡	3,962㎡
支店・事業所	○土橋支店 （土橋クリーンセンター） 新見市土橋55番地の1 中間処理施設 破碎・圧縮・焼却・濃縮・乾燥・選別 ○真庭営業所 真庭市上水田2411-1 ○総社営業所 総社市井手660-1	○リサイクルプラザにいま 新見市高尾2298番地の2 ○土橋営業所（土橋クリーンセンター） →中間処理施設 破碎・圧縮・焼却・濃縮・乾燥・選別 ○大佐営業所 新見市大佐小坂部1235
処理量	産業廃棄物収集運搬量 4,207.09t 産業廃棄物処理量 3,155.81t	一般廃棄物収集運搬量 4,897.54t

# 環境経営方針

- 私たちは、廃棄物の収集効率とリサイクル技術の向上を追求し、環境負荷低減に取り組みます
- 私たちは、資源循環事業を通じ、お客様のニーズに合わせたソリューションを提供します
- 私たちは、お客様との環境コミュニケーションを推進し、環境活動を促進します
- 私たちは、事業活動を昇華させ、地域の少子高齢化・市場の縮小といった課題を乗り越えることのできる強靱な会社を目指します
- 私たちは、環境経営のさらなる改善に継続的に取り組みます
- 私たちは、適用される環境関連法規を遵守します

## 重点項目

### 化石燃料の消費効率の向上

私たちの事業が環境に与える影響で最も大きいのは化石燃料（主に軽油）の消費です。業務量が増えれば軽油等の消費量が増大します。私たちの資源循環事業は、お客様、また環境への貢献そのものであるため、経営理念と事業活動、さらに環境保全の両立を図ることを目的として、以下の取組みを重点的に行い化石燃料の消費効率の向上を追求します。

#### （収集運搬業務：車両運転）

- ① 協力会社と業務の相互協力を行い、自社のみならず協力会社全体の運搬効率（空便低減）を向上
- ② エコ運転を実施（アイドリングストップ・急発進停車の低減）
- ③ 1次運搬時の1台当たりの運搬量の増加（コンテナ・車両の大型化・積載方法の工夫など）
- ④ 2次運搬時の1台当たりの運搬量の増加（積載可能量上限の積載など）

#### （中間処理業務：重機運転・破碎機稼働・車両運転）

- ① 重機運転時のエコ稼働（アイドリングストップ・適切な回転数での稼働など）
- ② 破碎機稼働時のエコ稼働（無負荷運転の減少）
- ③ 投入方法の工夫（1時間当たりの処理量の向上）
- ④ 場内の横持ち移動効率の向上
- ⑤ 分別徹底による最終処分量割合の低減（現状：最終処分場が最遠地のため）

2021年12月1日制定（2022年12月22日改訂）

にしみ清掃株式会社/山陽環境開発株式会社

代表取締役

岩元達也

# 自社の紹介

## 山陽環境開発株式会社のあゆみ

1973年 4月	新見市に塵芥処理業者「岩元」として設立
1985年 2月	社名を「山陽環境開発株式会社」に変更
1988年 3月	島根県 産業廃棄物収集運搬業許可取得
1988年 4月	広島県 産業廃棄物収集運搬業許可取得
1988年 8月	岡山県 産業廃棄物収集運搬業許可取得
1988年 8月	岡山県 産業廃棄物処分業許可取得
1991年 7月	鳥取県 産業廃棄物収集運搬業許可取得
1993年 7月	岡山県 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可取得
1993年11月	岡山県 産業廃棄物処分業:中間処理(破碎)許可取得
1994年 4月	新見市土橋に「土橋支店」及び中間処理施設(土橋クリーンセンター)を設立
1996年 3月	岡山県 産業廃棄物処分業:中間処理(焼却、乾燥)許可取得
1999年 3月	岡山県 産業廃棄物処分業:中間処理(濃縮)許可取得
2000年 8月	岡山県 産業廃棄物処分業:中間処理(移動式破碎)許可取得
2004年 3月	岡山県 廃棄物再生事業者登録認定(岡山県第51号)取得
2005年 6月	鳥取県 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可取得
2005年12月	兵庫県 産業廃棄物収集運搬業許可取得
2006年 9月	岡山県 産業廃棄物中間処理業(圧縮)許可取得
2008年 4月	(財)地球環境戦略研究機関よりエコアクション21認証・登録取得
2011年10月	大阪府 産業廃棄物収集運搬業許可取得
2012年12月	岡山県より岡山県資源循環推進事業所(岡山エコ事業所)として認定
2013年 3月	岡山県 産業廃棄物処分業:中間処理(選別)許可取得
2017年 3月	兵庫県 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可取得
2017年10月	代表取締役変更
2017年12月	岡山県より木くずの移動式破碎許可取得
2021年10月	岡山県 産業廃棄物処分業:中間処理(焼却)休止



岡山県新見市を拠点とし、幅広い活動を行うため近隣府県の収集運搬業の許可  
(p.10~にて許可の範囲をご覧ください)を所有

### グローバルな視点で持続可能な地域づくりに貢献する

という経営理念のもと、地元から隣県、日本そして世界各地で持続可能な地域づくりを目指します

# 自社の紹介

## 4tダンプ車



小回りの利く機動力と確かな積載能力で、都市部から建設現場まで幅広く活躍します。

### ■得意とする現場

- ・住宅リフォーム現場
- ・市街地の建設現場
- ・工場の小規模工事
- ・公園・緑地の整備作業
- ・道路補修工事
- ・狭あい道路での作業

など

## 10tブローカー車（特殊車両）



液状汚泥輸送のエキスパート、確かな技術で安全・確実に。

### ■得意とする現場

- ・浄化槽汚泥の収集運搬
- ・産業排水処理施設の汚泥収集
- ・基礎工事現場の泥水処理
- ・側溝汚泥清掃
- ・掘削現場の含水汚泥
- ・建設現場の汚水処理

など

## 10tウイング車




大容量×全天候型、あらゆる廃棄物を安全確実に。

### ■得意とする現場

- ・大型商業施設のリニューアル
- ・オフィス移転に伴う什器類の搬出
- ・工場設備の更新時

など



他にも様々な車両を保有  
(p.13参照)



## 自社の紹介

通常のコンテナの他、鉄箱も完備  
設置依頼に幅広く対応しています



廃プラは固形燃料の原料に  
木くずはボイラーの燃料に



太陽光パネルも完備

2023年度売電量：32,972kWh



資源循環を目指し、廃棄物をリサイクルできるよう中間処理  
技術を向上させ、各リサイクル業者と協力体制を結び、環境  
負荷を減らします

# 自社の紹介



## リサイクルバンク 2022年3月オープン！

(岡山県新見市高尾2298-2 リサイクルプラザにのみ施設内)

地域の方向けに、資源を持ち込んでポイントを貯められる新たなサービスを開始しました

### ■対象品目

新 聞	アルミ缶
雑 誌	スチール缶
ダンボール	ペットボトル

### ■持ち込み量

約3,000kg/月

リサイクルバンクオープンに際し作られたオリジナルキャラクター！  
名前は市民の方からの公募により決定しました♪



オリジナルキャラクター『エコみん』



# 自社の紹介

## 「捨てる」を「救う」に

ペットボトルキャップをワクチンに変える活動を行っています



回収

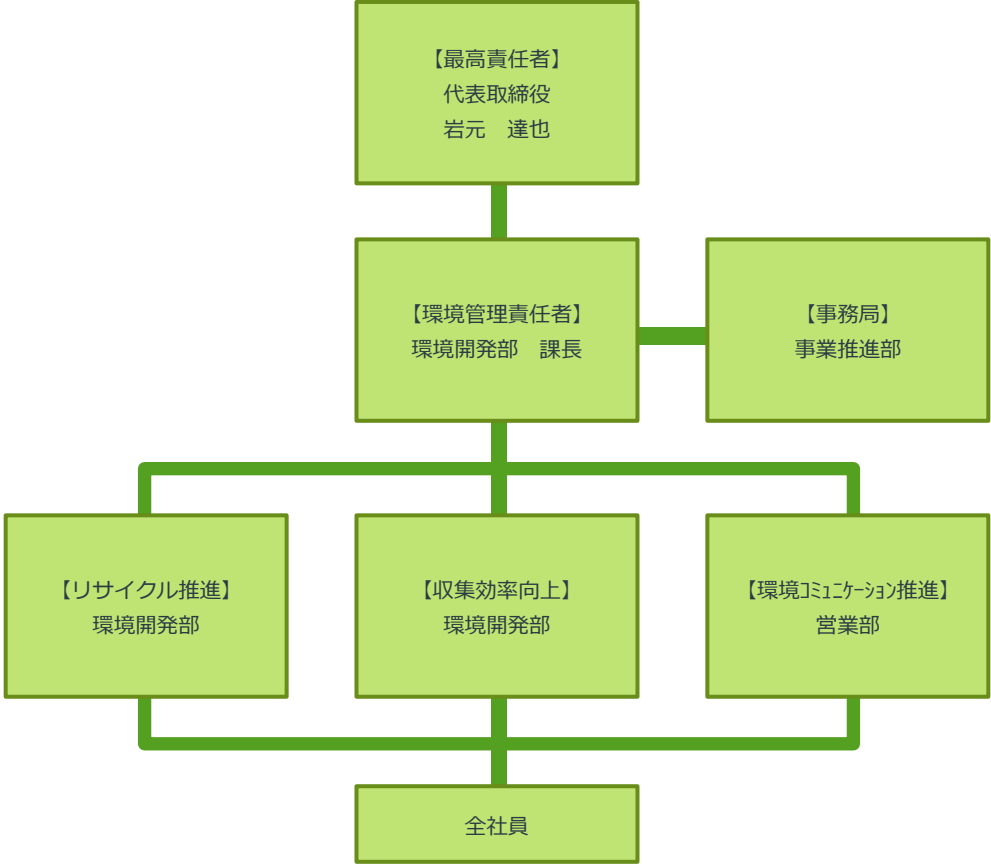
山陽環境開発

再生

寄付



# 組織図



職名	役割・責任及び権限
最高責任者	①環境管理責任者の任命、権限の付与
	②（環境課題の情報等に沿って）環境経営方針の策定
	③環境方針の策定、見直し改善指示
	④経営資源の調達・提供・活用支援
環境管理責任者	①環境課題を情報集積・分析し、最高責任者に報告
	②（環境経営方針に従って）環境経営目標の策定
	③各環境経営目標に応じた担当者の配置
	④環境系活動と実務活動の両立支援
事務局	①各活動担当者の依頼に応じて環境経営活動の情報蓄積・客観的評価・分析結果の提供
	②改善活動の支援
	③記録・文章の保管
	④環境教育の実施
全社員	①目標事項を実施
	②環境活動を記録
	③集積された情報を分析・主観的評価し、環境管理責任者へ報告
	④改善活動・提案

# 許可事項

産業廃棄物 収集運搬業許可一覧（山陽環境開発）							
◎・・・特別管理産業廃棄物収集運搬業の取り扱いがある品目							
自治体		岡山県	広島県	鳥取県	島根県	兵庫県	大阪府
許可番号	産業廃棄物	第03316004963号	第03400004963号	03101004963	03200004963	第02806004963号	第02700004963号
	特別管理産業廃棄物	第03366004963号	-	03151004963	-	第02856004963号	-
許可年月日	産業廃棄物	2024年1月5日	2022年9月6日	2023年7月19日	2021年3月11日	2022年12月2日	2023年10月25日
	特別管理産業廃棄物	2022年7月4日	-	2022年6月8日	-	2022年3月9日	-
有効期限	産業廃棄物	2030年11月29日	2029年9月5日	2030年7月18日	2028年3月10日	2027年12月1日	2030年10月24日
	特別管理産業廃棄物	2029年6月30日	-	2029年6月7日	-	2027年3月8日	-
積替・保管の有無	産業廃棄物	有	無	無	無	無	無
	特別管理産業廃棄物	有	-	無	-	無	-
事業の範囲	燃え殻	○	○	○	○		○
	汚 泥	○	○	○	○	○	○
	廃 油	○	○	○	○	○	○
	廃 酸	○	○	○	○	○	○
	廃アルカリ	○	○	○	○	○	○
	廃プラスチック類	○	○	○	○	○	○
	紙くず	○	○	○	○	○	○
	木くず	○	○	○	○	○	○
	繊維くず	○	○	○	○		○
	動植物性残さ	○	○	○	○		○
	ゴムくず	○	○	○	○		○
	金属くず	○	○	○	○	○	○
	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	○	○	○	○	○	○
	鋳さい	○			○		○
	がれき類	○	○	○	○	○	○
	感染性廃棄物	○		○			
	廃石綿等	○					
	ばいじん	○					

産業廃棄物 処分業許可品目一覧（山陽環境開発）							
自治体		岡山県					
許可番号		第03326004963号					
許可年月日		2024年1月5日					
有効期限		2030年11月29日					
許可内容		中間処理 (破碎)	中間処理 (移動式破碎)	中間処理 (焼却)	中間処理 (乾燥)	中間処理 (濃縮)	中間処理 (圧縮)
事業の範囲	燃え殻						
	汚 泥				○	○	○
	廃 油						
	廃 酸						
	廃アルカリ						
	廃プラスチック類	○					○
	紙くず	○		○			○
	木くず	○	○	○			○
	繊維くず			○			
	動植物性残さ						○
	ゴムくず	○					
	金属くず	○					○
	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	○	○				○
	鋳さい						○
	がれき類	○	○				○
	ばいじん						

# 許可事項

積替保管施設（面積・保有上限）			
	面積	保管上限及び高さ	
産業廃棄物	①82.50㎡	300㎡	屋内
	②686.86㎡	341t	2m
特別管理産業廃棄物	397.22㎡	20t	屋内/容器保管

一般廃棄物 収集運搬業許可一覧（山陽環境開発）			
自治体	新見市	真庭市	総社市
許可番号	第5-2号	第10号	第210号
許可年月日	2023年9月15日	2024年4月1日	2024年4月1日
有効期限	2025年9月14日	2026年3月31日	2026年3月31日
事業範囲	新見市内	真庭市内	総社市内
取り扱う廃棄物の種類	ごみに限る	ごみに限る	ごみに限る

一般廃棄物 処分業許可品目一覧（山陽環境開発）				
自治体	新見市			
許可番号	第5-1号			
許可年月日	2023年6月1日			
有効期限	2025年5月31日			
許可内容	中間処理	中間処理	中間処理	中間処理
	(破砕)	(圧縮)	(濃縮)	(選別)
燃え殻				
汚 泥			○	○
廃 油				
廃 酸				
廃アルカリ				
廃プラスチック類	○	○		○
紙くず	○	○		
木くず	○	○		
繊維くず				
動植物性残さ				
ゴムくず				
金属くず				○
ガラスくず・ コンクリートくず及び 陶磁器くず				○
鋳さい				
がれき類				○
ばいじん				
食品廃棄物				

# 許可事項

一般廃棄物 収集運搬業許可一覧（にいみ清掃）	
自治体	新見市
許可番号	第5-4号
許可年月日	2024年4月1日
有効期限	2026年3月31年
事業範囲	新見市内
取り扱う廃棄物の種類	ごみに限る

一般廃棄物 処分類許可品目一覧（にいみ清掃）					
自治体		新見市			
許可番号		第5-2号			
許可年月日		2023年9月15日			
有効期限		2025年9月14日			
許可内容		中間処理	中間処理	中間処理	中間処理
		（破碎）	（圧縮）	（油水分離）	（選別）
事業の範囲	燃え殻				
	汚 泥				
	廃 油				
	廃 酸				
	廃アルカリ				
	廃プラスチック類	○	○		○
	紙くず	○			
	木くず	○			○
	繊維くず				
	動植物性残さ				
	ゴムくず				
	金属くず				○
	ガラスくず・ コンクリートくず及び陶磁器くず				○
	鋳さい				
	がれき類				○
ばいじん					
食品廃棄物				○	

産業廃棄物 収集運搬業許可品目一覧（にいみ清掃）		
自治体		岡山県
許可番号		第03306034857号
許可年月日		2021年1月5日
有効期限		2025年10月29日
積替・保管の有無		無
事業の範囲	燃え殻	○
	汚 泥	○
	廃 油	○
	廃 酸	○
	廃アルカリ	○
	廃プラスチック類	○
	紙くず	○
	木くず	○
	繊維くず	○
	動植物性残さ	○
	ゴムくず	○
	金属くず	○
	ガラスくず・ コンクリートくず及 び陶磁器くず	○
	鋳さい	○
	がれき類	○
ばいじん	○	



# 車両台数

運搬車両 台数一覧							
車 種	塵芥車	コンテナ 専用車	ダンプ車	清掃車	キャブ オーバー	バン	計
にしみ清掃保有	12	0	4	3	6	2	27
山陽環境開発保有	2	9	2	5	1	1	20



**清掃車**：強力吸引車、高圧洗浄車

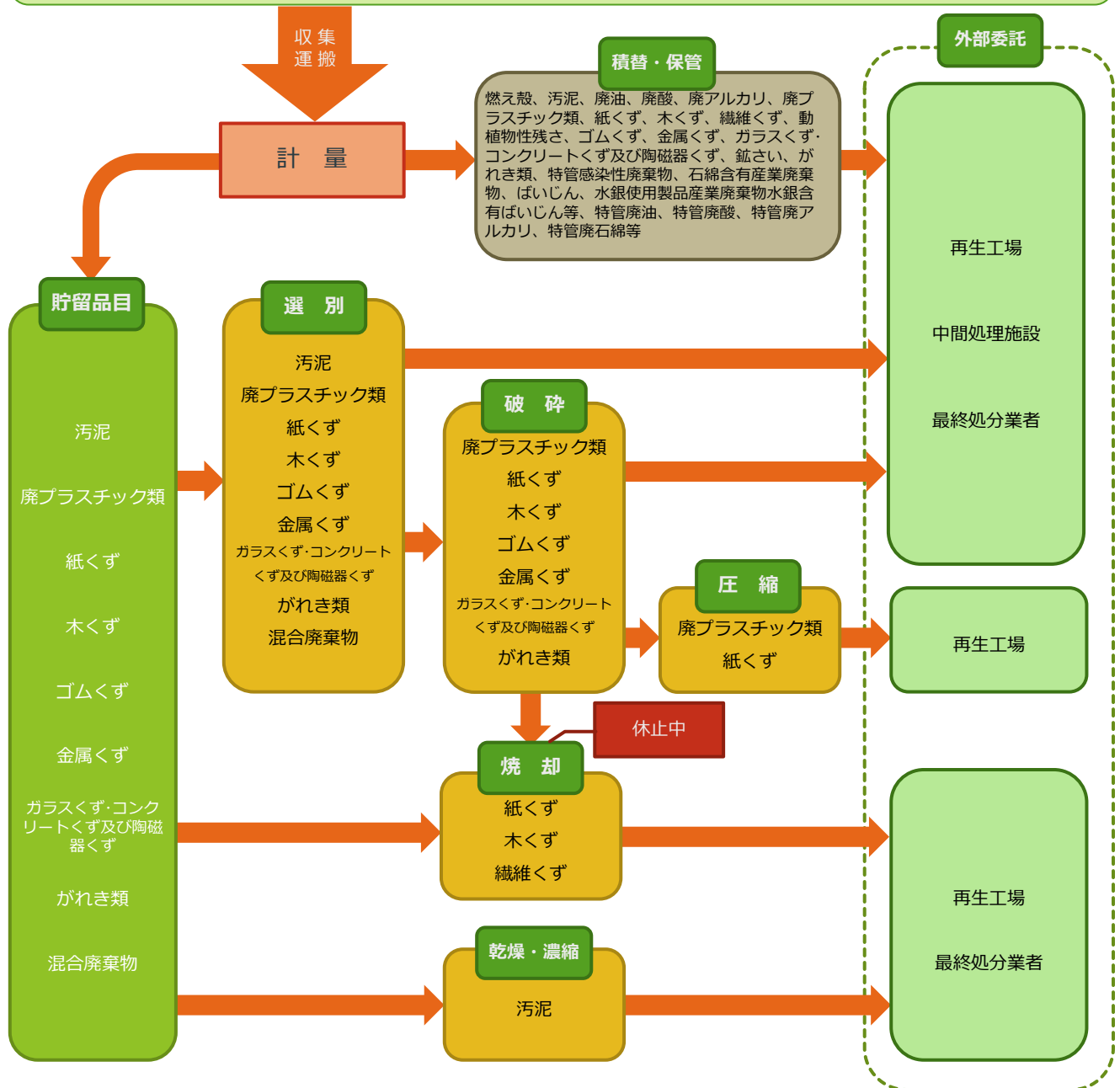
建設現場や災害復旧作業、道路の側溝清掃などで使用

**バ ン**：ウィング車

パレットやフレコン・ドラム缶などの運搬に使用

# 産業廃棄物処理工程

燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、鋳さい、がれき類、感染性廃棄物、廃石綿等、ばいじん



## 破碎施設

移動式破碎機 300t／日（10h）  
ガラス・コンクリート・陶磁器くず・がれき類

固定式及び移動式破碎機 37.44t／日（8h）  
木くず

## 圧縮施設

縦型 7t／日（8h）  
横型 4.8t／日（8h）

# 環境経営目標

		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
電気使用量の削減	削減目標 (2社合計)	kWh	83,102 (実績)	80,609	78,191	75,845	73,570	71,363
水道使用量の削減	削減目標 (2社合計)	m <sup>3</sup>	1,019 (実績)	988	958	929	901	873
燃費向上	増加目標 (にいま清掃)	kg/ℓ	95 (実績)	102	111	120	132	146
	増加目標 (山陽環境開発)		98 (実績)	105	114	124	136	151
廃プラスチック類の リサイクル率向上	増加目標 (山陽環境開発)	%	41.33 (実績)	51.03 (実績)	58.46 (実績)	70.00	80.00	90.00
全品目の リサイクル率向上	増加目標 (山陽環境開発)	%	36.71 (実績)	36.06 (実績)	42.03	44.97	48.12	50.00

※ガソリン、灯油、A重油、LPGについては使用量が軽微なため目標設定はしない。  
化学物質は使用していないので目標設定はしない。

## 電気使用量の削減

2020年度を基準とし、年間3%の削減を行い、5年後に15%の削減を目標とする。

## 水道使用量の削減

2020年度を基準とし、使用量の均一化を図り、5年後に15%の削減を目標とする。

## 燃費向上

運搬量/軽油使用量 (kg/ℓ) を原単位とし、数値の増加を目標とする。

2020年度を基準とし、燃料の使用量を年間7%削減し、5年後に35%削減した場合の燃費を目標とする。(運搬量の基準も2020年度とする。)

※2020年度運搬量は山陽環境開発：9248.45 t、にいま清掃：5,254.07 t

軽油使用量は山陽環境開発：94,487.22ℓ、にいま清掃：55,273.2ℓである。

## 廃プラスチック類のリサイクル率向上

(再生・リサイクル量) / 総搬出量 × 100% とし、2020年度を基準に、60%を中期目標とする。そのため年間約8%の増加を目標とする。

⇒最終処分先のマテリアルリサイクル促進による影響から2025年度に90%を中期目標とする。そのため年間約10%の増加を目標とする。

※2022年度再生・リサイクル量は山陽環境開発：673.63 t、総搬出量は山陽環境開発：1,152.26 t である。

2023年度に目標の再設定を行った。

## 全品目のリサイクル率向上

(再生・リサイクル量) / 総搬出量 × 100% とし、2020年度を基準とし、50%を中期目標とする。そのため年間約7%の増加を目標とする。

※2020年度再生・リサイクル量は山陽環境開発：1,156.77 t、総搬出量は山陽環境開発：3,151.36 t である。

2021年度再生・リサイクル量は山陽環境開発：1,479.83 t、総搬出量は山陽環境開発：4,103.41 t である。

2022年度に目標の再設定を行った。

# 環境経営計画と実施状況

日々の取組	活動内容
電気・水道のこまめな節約	日々の節電・節水・ムダを意識して行動する
エアコンの適正稼働	夏は28℃、冬は20℃に設定 扇風機、衣服での調整を行う
エコドライブ重点項目設定	eスタート、早めのアクセルオフ実施、暖気5分
機械・重機の稼働効率向上	原価管理の指標を作り、稼働率を把握する
選別の効率向上	社員の意識改善（社員共育）を行い、リサイクル量を増加させる
環境コミュニケーション	持続性のある処分方法の提案を促進する

## 振り返り

日々の活動に各担当者が目標を細分化し活動しており、来期に向けてさらにブラッシュアップしながら計画の達成を目指していきたい。

### ・日常インフラの節約

こまめに消灯・節水を行うなどして日々の積み重ねができています。また、異常を早めに察知できるように点検も行ってきた。

### ・エコドライブ

走行前の点検と走行時のエコドライブにより、車輛の故障を防ぐ努力をできている。こうした努力がしていない場合としたときとでどれだけ違うのかという研修についても行っていきたい。

### ・機械、重機の稼働効率向上

様々なデータを集約しているところでまだ不十分ではあるが人時生産性を向上させるためにフローの効率化を図っていきたい。

### ・選別の効率向上

処理フローの見直しを適宜行っており、リサイクル率等の目標数値を追うことで目標を意識しながら作業するという職場づくりも含めて進んできているため、目標に対してどんなプロセスをとるかなど教育を含め進めたい。

### ・環境コミュニケーション

搬出先のサーマルリサイクルが進んだ結果、リサイクルに関する提案の幅が広がり、CSを意識した活動ができている。今後について現在のリサイクル率を維持しつつ自社で処分する廃棄物の増加を促進していきたい。

# 環境経営目標の達成状況

## 電気使用量の削減

削減目標 ( 2社合計 )	単位	2020年度		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	kWh	83,102 (実績)	目標	80,609	78,191	75,845	73,570	71,363
			実績	91,157	82,065	76,896		
結果	<p>昨年よりも使用量は減ったものの依然として目標数値を超えている状況である。 年々処分量が減少傾向であるものの処理困難物等による場内の稼働時間増による 要因が大きい。また、業務時間外対応も増加しており外的要因に大きく左右され ている。 改めてどの施設・区画の電気使用量が多いのかという分析を行い、 PDCAサイクルによる削減を進めていきたい。</p>							
×								

## 水道使用量の削減

		単位	2020年度		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
削減目標 ( 2社合計 )	m³	1,019 (実績)	目標	988	958	929	901	873	
			実績	1,245	3,020	888			
結果		日々こまめに使用量削減ができています。車両によっては水を多く使用することもあるので、業務内で使用する水の量も抑えられるような効率化を引き続き進めていきたい。							
○									

### 【今年度の二酸化炭素排出量】

2023年度：480,061 kg-CO<sub>2</sub>

(2022年度：486,871.81kg-CO<sub>2</sub> 2021年度：516,411.76kg-CO<sub>2</sub> 2020年度：491,036.52kg-CO<sub>2</sub>)

※電気の二酸化炭素排出係数を 0.542kg-CO<sub>2</sub>/kWh とする。



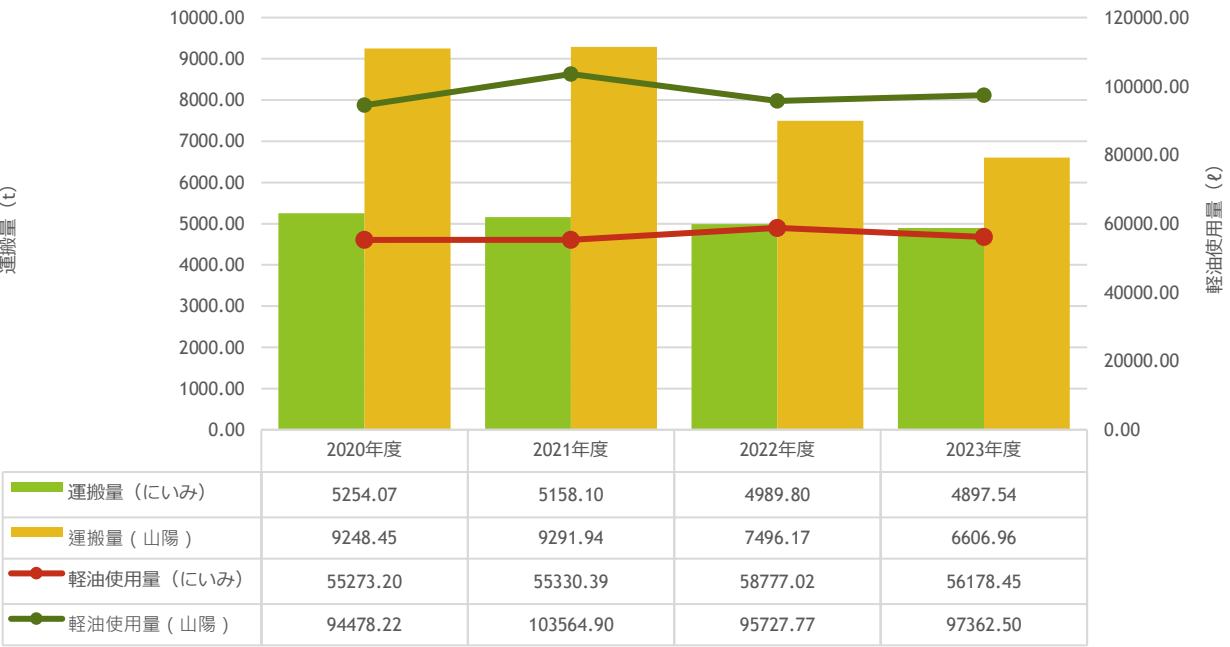


# 環境経営目標の達成状況

## 燃費向上


	単位	2020年度		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
増加目標 (にいみ清掃)	kg/ℓ	95 (実績)	目標	102	111	120	132	146
			実績	93	85	87		
増加目標 (山陽環境開発)		98 (実績)	目標	105	114	124	136	151
			実績	90	78	68		
結果	<div>×</div> <p>にいみ清掃では、</p> <p>①回収物が軽いものが多かった。</p> <p>②最大積載量になる前に焼却場に運搬している。</p> <p>③空車で走行している。</p> <p>などの要因があり、回収ルートによっては焼却場に搬入しなければ回収しきれない箇所もあるため、ルートの効率化を模索し燃費の向上につなげたい。また山陽環境開発の業務を行うために空車で移動する等も業務として発生しているので人の動きも含め効率的な配車を行っていきたい。</p> <p>山陽環境開発では、昨年と比べ燃料使用量が増加しさらに運搬量も大きく減少している。廃棄物によっては体積物で軽量物の場合も多く、何度も往復するような業務が多かった。体積が大きいものに関して適当な車両を選択できるようにどの車両で対応すべきかについても検討が必要である。</p>							

運搬量と軽油使用量

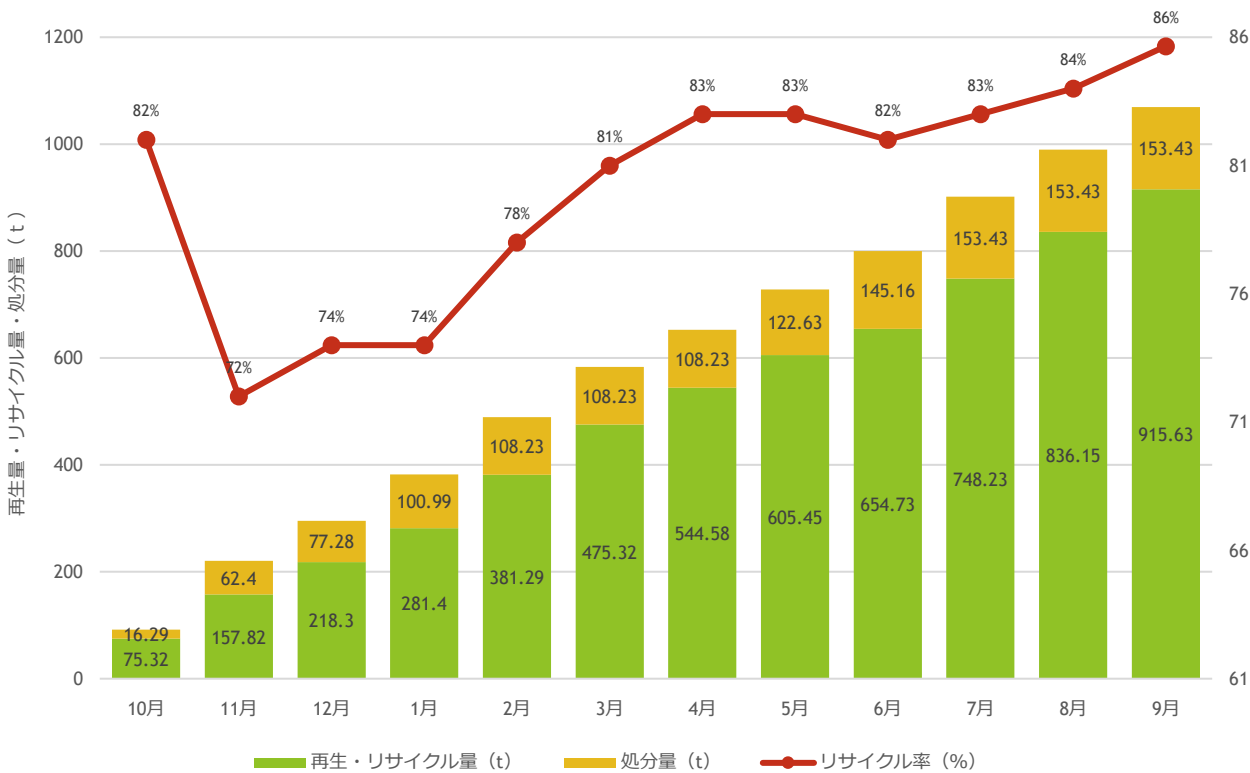


# 環境経営目標の達成状況

## 廃プラスチック類のリサイクル率向上


	単位	2020年度		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
増加目標 (山陽環境開発)	%	41.33 (実績)	目標	47.12	48.21	70.00	80.00	90.00
			実績	51.03	58.46	86.65		
結果	<p>目標数値を大きく上方修正したもののその数値も達成することができた。マテリアルリサイクル促進という外的要因がある。中間処理後物について選別の効率化を図ってきたが、そこに協力会社との環境コミュニケーションの活動が実を結んだ結果となった。より環境コミュニケーションを促進し、受入量の増加をしつつ、リサイクル率の維持をしていきたい。</p>							
								

廃プラスチック類の総搬出量に対する再生・リサイクル量の割合（累積）

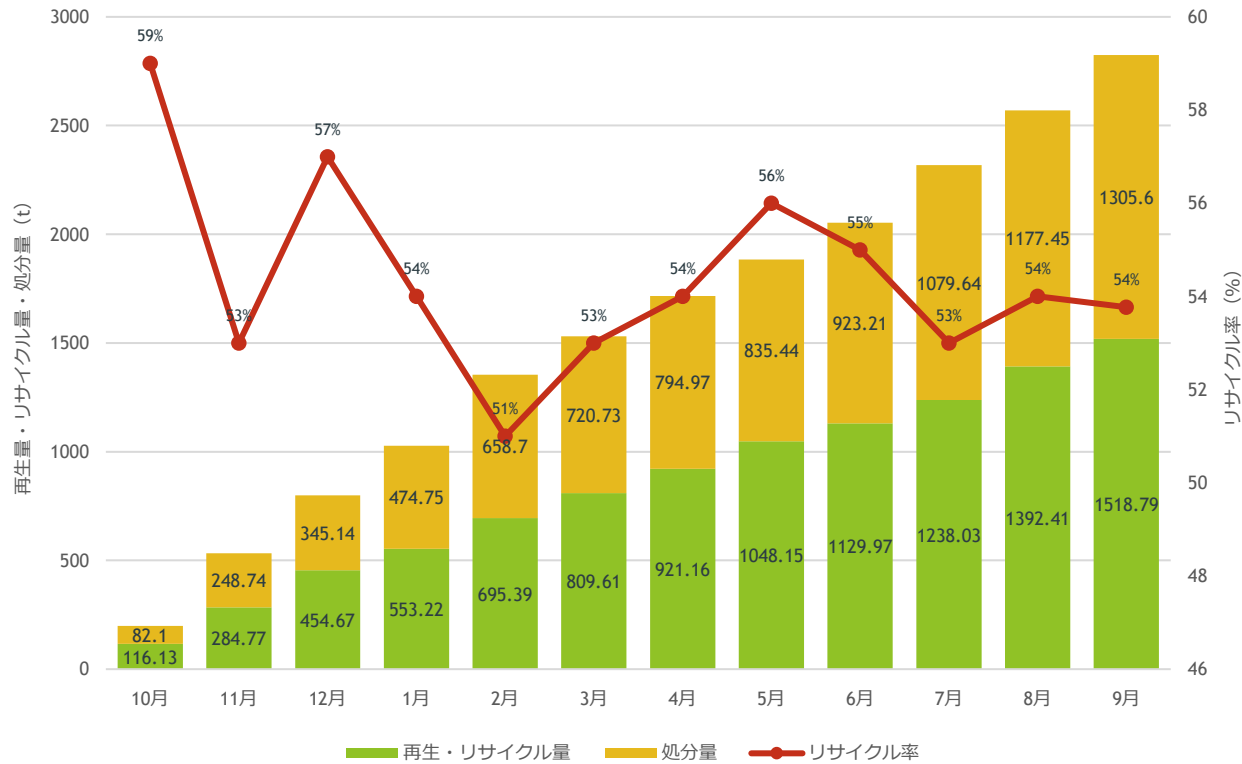


# 環境経営目標の達成状況

## 全品目のリサイクル率向上

	単位	2020年度		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
増加目標 ( 山陽環境開発 )	%	36.71 (実績)	目標	41.85	42.03	44.97	48.12	50.00
			実績	36.06	41.14	53.77		
結果	<p>廃プラスチック類のリサイクル率向上によって全体的に引き上げられたと考えられる。来期には目標の上方修正を行いたいと思っているが、搬出量の多い汚泥・がれき類のリサイクル率向上に向けて協力企業の開拓、自社の選別力の向上を目指したい。</p>							
								

## 全品目の総搬出量に対する再生・リサイクル量の割合（累積）



# 環境関連法規等の遵守状況

環境関連法規等は遵守できています。

関係当局より、違反等の指摘は過去 3年間ありませんでした。

訴訟等ありませんでした。

No	対象法令一覧表
1	大気汚染防止法
2	下水道法
3	浄化槽法
4	土壌汚染対策法
5	騒音規制法
6	工業用水法
7	ダイオキシン類対策特別措置法
8	消防法（危険物関連）
9	廃棄物の処理及び清掃に関する法律
10	特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）
11	悪臭防止法
12	環境保全協定（新見市）
13	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）
14	食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（食品リサイクル法）

# 代表者による全体評価と見直し結果

## 1. 外部環境

2024年9月期の外部環境は、経済面では羽田空港での日航機衝突事故、自動車業界の認証試験不正、小林製薬の青力ピ問題などがありました。また、政治面では政治家の裏金事件、愛知県知事・兵庫県知事の問題などがありました。共通して言えることとしては、信用を失うことになっているという点です。同時に、メディアの偏った報道についても、SNSなどを通じて、明るみになるようになってきました。一方で、インターネット上の情報は必ずしも正しいものばかりではなく、信用できるものか否か、高度な判断力が必要な時代となりました。

## 2. 内部環境

上記のような、何を信じて良いのか分からない時代において、客観的なデータの蓄積と、そのデータの情報公開、さらにエコアクション21のような客観的な評価を受けることは、今後益々重要になっていくと考えます。障がい者雇用セミナー、厚生労働省の働き方・休み方改革セミナー等の講演の依頼を受諾し、自社の取組についても広く、発信することを継続しています。

## 3. 環境経営目標の達成状況について

現在、持続可能な経営のために、「働きやすい職場づくり」と「必要とされ続ける事業づくり」を両輪とした組織づくりを行っています。引き続き、エコアクション21の取組みと、事業活動が重なる部分を着実に増やしていき、ガバナンスの強化を図っていきます。各環境経営目標に目を向けると、インフラである電気使用量に関しては、引き続き総量および目標との差も減少傾向です。昨年度、水漏れにより大幅な目標未達項目であった水道使用量に関しては、目標を達成するに至りました。燃料効率は、引き続き顧客の排出物の質が変わってきてしまい、1L当たり運搬できている廃棄物量が減少しており、数値の減少傾向です。環境負荷低減と経済性の観点から、お客様（社外）と配車（社内）の両面から課題を見つめ直す必要が出てきました。一方、リサイクル率に関しては、協力会社との協力により、当社では過去最高の廃プラスチック類86%超、全品目53%超という結果となりました。現状に慢心せず、外部環境に振り回されない企業体質を引き続き目指し、営業活動・生産活動に取り組みます。

次年度には組織体制の変更に伴って環境経営方針の見直しを実施する予定であり、環境経営目標及び環境経営計画、実施体制は変更しない。

2024年11月12日

にいみ清掃株式会社/山陽環境開発株式会社  
代表取締役

岩元達也